

## 6 ベトナム留学体験記

### 6-1 ハノイ国家大学

氏名：合田千寿

留学先の大学：ハノイ国家大学 人文・社会科学大学

専攻：ベトナム語

留学時期：2004年9月～2005年8月

#### 1. ベトナムへの留学動機と留学の準備

私がベトナムへ留学した理由は、大学でベトナム語を専攻するなかで、実際に現地へ行き、生活をしながらベトナム語を勉強し、ベトナム語力を向上させたい、またベトナム人の生活、社会、文化への理解を深めたいと思ったからです。留学先には大学の協定校を選び、大学間交流制度による派遣留学生として、1年間留学しました。そのため留学先の学校の入学手続きは、すべて大学の先生にお願いしました。

留学前に、私は A 型肝炎の予防接種を受けました。予防接種は何回かに分けて打たなければいけないので、なるべく早いうちから受けておいたほうが良いと思います。また、ベトナムで病院にかかった際の医療費がキャッシュレスになる保険にも入っておくと安心です。

私は、すでに大学 1～2 年のうちに学校でベトナム語の授業を日本人とネイティブの先生から受け、ベトナム語の基礎は学んでいましたが、実際の会話経験はほとんどなかったので、留学前には特に大学のベトナム人留学生と積極的に交流するようにしました。また留学資金稼ぎとベトナム会話の練習をかねて、ベトナム料理店でアルバイトをしました。

#### 2. 大学、クラス、勉強、交流について

留学生向けのベトナム語学科は、人文・社会科学大学のほかの学科と離れて単独でバクホア地区 (Bách Khoa) にあります。そのため学校の敷地内は外国人留学生だけで、校舎もとても小さくこぢんまりとしています。1 クラスは 1 人から多くても 10 人ほどなので、教室も小さく、冷暖房設備はなく、日本の学校のイメージとは異なるものがあると思います。また授業は午前中か午後のどちらかで (たくさん勉強したい人は 1 日中授業を受けてももちろんよいのですが)、朝は早く、8 時～11 時、午後は 1 時～4 時までの 3 時間授業です。長期休暇はテトの時期に 2 週間ほどあります。ただ、授業開始時間や休憩時間、長期休暇、また授業の方法も日本のように特に決められているわけではありません。というのも、授業料を払って授業を受ける場合、自分で特に希望しなければマンツーマンのレッスンになるので、自分の希望でどうにでも融通できるのです。よく言えば自由な、悪く言う

と適当な、ベトナム語学科は大学というよりむしろ塾や家庭教師といったものに近いと思います。

私の場合は、派遣留学生として授業料が免除されたため、マンツーマンでの授業は受けられず、決められたクラスでのグループ授業を週 3 日受けていました。クラスには韓国、北朝鮮、中国、カナダ、オーストラリアといった世界各国からの留学生がいて、授業でベトナム料理を作ったり、自分の国について発表したりと、グルーブレッスンならではのよさもありました。日本よりも先生との距離は近く、クラス単位で遠足に行ったり、授業時間外にもよく遊びに行ったりしました。

ベトナム語学科最大の行事としては、年末のパーティーと、年明けに他大学の留学生と合同で行われるフェスティバルがあります。いずれも生徒が有志で発表をするのですが、私たちのクラスはベトナムの民族楽器の伴奏で民謡を歌いました。大学合同のフェスティバルのほうはテレビでも放送され、とても盛り上がりました。また、そのほかにもバッチャン遠足や、ベトナム北部の民謡を聴きに行く半日遠足などがありますが、ベトナム語科の生徒全員ではなく、一部の生徒のみで行きます。日本のように親切な事前連絡も



ベトナム語科年末パーティーでのクラス発表 左からベトナム語の先生、中国留学生、韓国留学生、筆者、オーストラリア人、カナダ人の学生

ないので、他のクラスの留学生などと情報を交換し合って積極的に参加するのがよいと思います。ベトナム語学科では学期末などに特にテストを受ける必要はありません。しかし、レベルごとに A,B,C といった 3 段階のテストが用意されているので、留学の成果として帰国前に一度テストを受けてみるのをおすすめします。

ベトナムでの勉学は、誰に強制されるわけでもないので、怠けようと思えばとことん怠けることもできます。しかし頑張ればその分得られるものはたくさんあるので、しっかりと目標をもち、計画的に勉強をしていくことが大切だと思います。

### 3. 留学中の宿舎、生活、交通、通信などについて

私が借りていた家は学校まで歩いて 5 分くらいのところにありました。バックホア地区には外国人向けに部屋を貸している家がたくさんあるので、探せば学校の近くにいろいろ見つかると思います。ただ、留学してから自分で家を探すのは何かと大変なので、できれば事前に、留学している知り合いなどに頼んで紹介してもらおうと安心です。私は、先に留学していた学校の先輩が住んでいた家を紹介してもらい、留学前から大家さんに連絡して部



ホストファミリーとの食事

屋を空けておいてもらいました。部屋は冷蔵庫、エアコン、トイレ、シャワー付で、電気、水道代込みで一ヶ月 \$ 150 でした。また、電話回線でインターネットをつないでいたので、その通信費も別に払っていました。食事は夜だけ一食 7000 ドンで大家さんが用意してくれたので、特に用がないかぎり家族といっしょに食べていました。朝と昼は外で友達ととることが多かったのですが、大家さんの使っているキッチン

を自由に使っていいと言われていたので、たまに自分で作ったりもしました。生活費は家賃 \$ 150、食費 \$ 70、交通費、交際費、電話代その他 \$ 80 で、一ヶ月 \$ 310 くらいでした。お金は、留学時に持っていった \$ 1,800 と、ハノイでアルバイトをして稼いだもので一年やりくりしていました。一応、留学前にシティバンクで口座をつくり、ベトナムでいつでもお金をおろせるようにはしていました。

ハノイでの交通機関は主にバスやセオム（バイクタクシー）を利用していました。バスは学生用の 50,000 ドンの定期券を買えばすべての路線が乗り放題になります。本屋さんで路線図を買って、乗換えの方法などを研究しました。セオムは、いつも顔見知りの人に乗るようにしていました。また、友達のバイクの後ろにもよく乗せてもらいました。日本人留学生でも自分でバイクを買って乗り回している人がいますが、私はハノイのあのバイクの多い道で運転する自信がなく、もっぱら後ろに乗る専門でしたが、それで正解だったと思います。友達と遊びに行くときはいつも友達がバイクで迎えに来て、帰りも家の前まで送ってくれました。バイクの後ろから見るハノイの町の風景は飽きることがなく、ただ街をドライブするだけでとても楽しかったです。

日本の家族への連絡手段は主にメールで行っていました。私は日本からノートパソコンを持って行きましたが、バックホアのインターネットカフェで日本語の使えるパソコンも何台かあるそうです。国際電話をかけるには郵便局よりソネットカードというのを買って、インターネットでかけると音質は悪いですが安いです（50,000 ドンのカードで 1 時間くらい）。また、ベトナムでも携帯電話が普及してきているので、留学生でも簡単に買うことができます。ベトナムの携帯電話はプリペイドカード式がほとんどで、残金がなくなるとにカードを買って暗証番号を入力するシステムです。国際電話も受けることができ、ベトナム語、英語での携帯電話同士のメールの送受信も可能です。

生活をするうえで特に困ったことはなかったのですが、強いてあげれば、私は虫が苦手なので、部屋にゴキブリがでたときは大変でした。日頃から虫が出ないようにきちんと掃除をしていましたが、ベトナムの家は何かと隙間が多いので、どうしても入ってしまうようです。ベトナムのゴキブリは、動きは鈍いのですが日本のものと比べて大きく、黒光りしています。いつも大家さんをお願いして処分してもらっていました。また、いつの間にかヤモリが何匹か部屋に入っていて、夜中にキュルキュル鳴くのも気になりました。

#### 4. 勉学生生活を豊かにしてくれた「箏」

私は留学期間中、ベトナムの民族楽器である箏(*đàn tranh*)を習っていました。はじめは先生の言っているベトナム語も分からず大変でしたが、知れば知るほどベトナム楽器の奥深さを知り、ますます惹かれていきました。ベトナム語を勉強するより頑張っ、毎日のように弾いていました。結婚式や、新年のパーティーで各国大使の前で演奏させていただいたり、貴重な経験をすることもできました。ベトナム語だけでなく、楽器という夢中になれるものをみつけることができ、留学生活が充実したものになりました。

## 6-2 ハノイ外国語大学

氏名：近藤有希

留学先の大学：ハノイ外国語大学

専攻：ベトナム語、国際関係

留学時期：2004年4月～2005年3月

### 1. 留学の準備について

#### 【ベトナム留学の経緯】

私がベトナム語の勉強を始めたのは、大学2年生の頃です。そのときは、まだベトナムに行ったことはありませんでした。ただし、その前にいくつかの東南アジアの国を旅行してとても興味深く感じていたので、ベトナムにもいつか必ず行きたいと思っていました。そして、たまたま大学でベトナム語の授業が開かれていることを知り、授業をとってみることにしました。ベトナム語の勉強を始めると、それまで中国語を第二外国語で勉強していたせいもあったのか、とても馴染みやすく感じました。本当に基礎の基礎（発音、挨拶、初級会話）から始めて、1年たってようやく少し辞書を使って本当に簡単に短い文章を読める程度になりました。そこで、友人に誘われて初めてベトナムに行きました。1週間あまりの旅行でしたが、私はすっかりベトナムの街のエネルギーや人々の関わり合いなどの魅力に引き込まれてしまいました。さらに、たとえつたないベトナム語でも、私が一生懸命に話しかけると、ベトナム人の人もとても喜んで聞いてくれましたし、やはりお互い英語で会話をするときとベトナム語で会話をするときで、話の内容やそのときの感情の伝わり方が大変異なるように感じました。確かに語学力の面では伝えにくいかもしれませんが、私にはベトナム語で会話するときのほうがより相手と近い立場で、肩肘の張らない自然な会話ができるような気がして、「生（なま）の会話」の面白さを味わったように思います。そのときから、どうしてもベトナム語をマスターしたいと思うようになりました。

その後また1年間大学でベトナム語中級の授業をとって勉強をしましたが、やはり週に一度の授業でしたし、読解が中心でなかなか思うようにベトナム語は上達しませんでした。その間、もう一度ベトナムを旅行し、現地の治安の面や生活習慣・文化などを観察し、宗教的な面や食生活などの点も含め、いくぶん日本と似ている部分も多くあるように感じ、自分自身、何となくですがここならば生活していけるのではないかという気になりました。また、日本での勉強だけではやはり時間もかかりますし、実際の会話の勉強はなかなか出来ないことを大変悔しく思っていたこともあり、実際に現地へ行って勉強したいと思うようになりました。

#### 【学校の選択】

留学前にベトナムを旅行で訪れた際に、私は友人と一緒に1週間だけハノイでベトナム

語の授業を受けたことがありました。そのときは友人が、旅行者に対しても滞在期間中のベトナム語の授業を受けられる学校を探し、ハノイ外国語大学でそのようなコースを見つけることが出来たので、そこから先生をホテルに派遣してもらって勉強しました。このような経験から、ハノイ国家大学でも全く同様の授業（授業時間、授業料等）を行っているということでしたが、面識のあるハノイ外国語大学を選びました。大学からの交換留学というような形ではなく、全くの個人留学でしたので、単位の交換制度などはありませんでしたが、留学先などは自由に選ぶことが出来ました。

#### 【入学手続き】

4月からベトナムでの授業を始めたかったので、その前年末あたりに留学希望の意思をハノイ外国語大学へ申請しました。英語で留学希望の意思を書き、希望の留学期間、授業数、氏名、住所、年齢、日本の所属大学、学年などを明記して、パスポートのコピーを添えてメールとファックスの両方で直接大学側へ送りました。ベトナムは旧正月に入ると全ての作業が停止してしまい、旧正月の休み明けを待っていると大変時間がかかると思っていたので、なるべく早めに申請したほうがいいと思います。

#### 【ビザ手続き】

ベトナムの大学側が、私が送った書類を受理するとその確認のメールとビザの申請手続きの書類を同封した留学許可証を郵送してくれました。なかなか大学側の反応がない場合は何度かこちらからメールを送って、大学が書類をきちんと受理できたかどうか、いつごろ書類を郵送してくれたかなどを尋ねました。大学側から書類が郵送されてきたら、ビザの申請手続きの書類を持って大使館へ行って、1万2千円を支払って留学用の1年マルチプルビザを発行してもらいました。

## 2. 大学での勉学について

#### 【大学の概要、雰囲気】

私は、ハノイ外国語大学のベトナム語科に所属しました。ここは留学生用のコースだけが開設されていて、学生はみんな外国人です。日本人と韓国人が多く、中には会社から語学研修で来ている社会人の方や、アメリカ人の老夫婦のような人たちも勉強していました。他にも、モンゴル人、中国人、メキシコ人などいろいろな国の人がいて、常時2～30人程度の学生が勉強していました。教室はベトナム人学生が所属しているほかの語学科と同じキャンパス内にあるので、ベトナムのキャンパスライフ、ベトナム人学生達の生活がよくわかります。特に、日本人は、日本語科の学生の交流会や発表会へ誘われることが多く、現地の学生とも仲良くなることができます。大学の周りには学生用の安い食堂や、インターネットカフェ、コピー屋、喫茶店が多くあり、結構便利です。狭いですがグラウンドもあり、放課後になると多くの学生達がサッカー、陸上、バレー

ボール、バドミントン、空手などのスポーツを楽しんでいて、留学生も自由に加わることができます。日本の外国語大学と同様に圧倒的に女子学生が多いです。学生達は外国に興味を持っている人たちが多く、私達留学生に対してもとても好意的です。

ただし大学は、市内の中心部から離れていて、バスで 40 分以上、バイクでも 20~30 分くらいかかる場所に位置しているので、通学するのが少し面倒です。けれども、大学構内に清潔で新しい寮があり、留学生も入寮可能なので、短期の場合はその寮に滞在する人が多く、また大学の近くで外国人留学生に対して安く部屋を貸す下宿もあります。その場合はベトナム語科で紹介してくれます。

#### 【授業の方法、先生との関係など】

授業は、私達の希望と担当の先生の予定を調整して決められます。月曜日～金曜日まで開講されており、週に何コマ受けたいかという希望とどんなことを重点的に勉強したいかを最初に管理者の先生に伝えると、担当の先生と曜日、時間を決められます。1日に2コマ、午前と午後に分かれていて、午前は8時～11時半、午後は1時～4時半まで、午前、午後ともに真ん中で30分間の休憩があります。それ以降の変更も随時可能で、もし先生と相性が合わなかった場合は、先生を変えてもらうこともできますし、曜日や時間の変更も可能です。教科書も種類が豊富で、希望する勉強内容とベトナム語レベルを考慮して選ばれます。また授業の形態もマンツーマンから複数指導まで様々で、学生の希望や留学形態に合わせて行われます。マンツーマンだと1時間\$5、複数だと1時間\$3.5です。休憩時間には、一人一人に飲み物を出してくれます。

私の場合は、ベトナム語の授業は最初から最後まで友人と二人で受けていました。始めのうちは、週5日受講していました。担当の先生は2人で、日替わりでした。もう一度、発音の基礎から習いました。一つの発音を直されて、1時間も同じ音の発音練習をさせられるといったこともありました。先生は大学院生や、大学を卒業したての20代から30代の若い先生が多く、私達の先生も若い先生だったので、とても親しみやすく、熱心でした。何度か先生の家へ招待されて遊びに行ったりもしました。他の学生達も先生と非常に仲がよく、普通の友達同士のように買い物やご飯を食べに行く人も多かったです。私達は、最後の3~4ヶ月になるとベトナム語の授業の回数を減らし、それぞれの興味がある分野の授業を1コマずつ受講しました。私は国際関係を勉強しました。このときも、同じようにベトナム語科の先生で、国際関係を大学時代に勉強していた先生が担当してくれ、ベトナムから見た東南アジア各国とアメリカやヨーロッパ、社会主義国家との関係を説明するといった内容でした。

#### 【日本の大学との違い】

基本的に、日本の大学の授業とあまり違いはありません。教科書を読んで、その練習問題をやったり、関連する新聞記事を読んだりします。エッセイの課題を出されることも

ありますし、単語の小テストをやったりもします。新しい文法を習ったときは、よく例文を作られます。大きな違いは、少人数形式であることです。自分が理解しにくい部分については徹底的に質問することができることや、時間をかけて発音練習が出来ること、また自分が興味のあるテーマや、そのときの自分の生活の中で気になっていることなどについて先生達と話し合えることは、とても面白いし、ベトナム語の練習にも大変役立ったと思います。留学終了時に、正式な試験が行われて、ベトナム語レベルのチェックがなされます。

#### 【学事日程、授業時間、学期（試験）、長期休暇】

授業時間や試験は上記の通りです。1年に1度、夏に先生達と生徒の希望者で遠足に出かけます。私のときは、Nghe An 省に海水浴へ行きました。他に、先生の日（11月20日）は生徒達がそれぞれ歌や踊り、ちょっとした演劇を披露したりします。この日は、先生達が全員アオザイを着ていて、留学生の女性もほとんどがアオザイで参加します。そのほか、それぞれの留学生が留学期間を終えて帰国する際に、先生達がお別れ会を開いてくれます。



先生の日にはベトナム語の先生と(左から2番目が筆者)

各祝日以外の休暇は、テト（旧正月）の長期休暇で、約1週間休みです。ただし、留学生は基本的に自由に自分の都合に合わせて休暇をとることが出来るので、旅行に行きたい場合や一次帰国したい場合も事前に連絡すれば、いつでも休暇をとることが出来ます。授業料は、授業を受けた分だけ月末に支払うことになっていました。そのため、私はよく大学を休んで、ベトナム国内の様々なところへ出かけていました。1週間以内の休暇から数週間にわたる休暇を月に1度程度の割合でとっていたと思います。

### 3.生活について

#### 【住居】

私は、始めからどうしてもホームステイをしたいと考えていたので、寮には入りませんでした。それから、ハノイで生活していらっしゃる日本人の方々から「大学の近くだと本当に大学だけが中心の生活になってしまいがち」というアドバイスをされたので、ハノイ外国語大学が郊外に位置していることもあり、大学からは遠いけれど中心部寄りで、しかし決して騒がしい街の真ん中というわけでもない住宅街にある普通の民家でホームステイしていました。外国人用の下宿はほとんどが口コミの情報で、私も現地在住の日本人の知り合いの方に紹介していただきました。住居選択で私が1番重視したのは、ホームステイできることと家族の人柄、どの程度の間隔をホストファミリーと築きたいかという点で

テト(旧正月)には親戚中がホスト宅に集まった (左から4番目が筆者)



す。ベトナムでは、まだまだ全ての条件が整っている住宅を探し出すことが難しいので、このように何を最も重視するかを明確にすることが大事です。ちなみに、私のホストファミリーは3人家族で、おばさんと娘さん(28才)息子さん(22才)の3人家族で、それまでにもう10人くらい外国人に部屋を貸しているという家族でした。私は、その家で、広くて最も明るい部屋を与えられ、家具(ベッド、勉強机、

ソファ、小さいテーブル、たんす)と天井についているファンと冷房がついていました。家賃は1ヶ月\$120です(洗濯代込み)。学校へは、最寄りのバス停からバスで40分程かけて通いました。街の中心部までもバスで15~20分程度、バイクタクシーで10分程度の距離でした。

#### 【食事(寮、自炊、下宿)】

食事は、ホストファミリーのおばさんが作ってくださって、家族と一緒に食べていました。私が外食する際は、前もって伝えておき、そうでない場合は1食10,000ドンで食べさせてもらえました。月末におばさんが食事した回数を数え、家賃と一緒に支払っていました。それ以外に、おやつやフルーツなどの間食や軽い朝食などは、よく食費とは関係なく食べさせてくれていました。外食よりも衛生面では安全ですし、味もよく、飽きにくいので非常に助かりました。

#### 【銀行・送金方法(お金の管理)】

私は、シティバンクの留学生用の口座を開設して行きました。月々両親から送金してもらい、現地のATMを使って必要な分だけ引き出すようにしていました。シティバンクのキャッシュカードが使えるATMは街中に多くあるので、便利でした。ただし、引き出せるのは現地通貨だけなので、日々の生活においては問題ありませんが、多額のお金が必要になったり、外国へ行く場合も考えて、米ドルもいづらか所持しておいて、自宅で保管していました。

#### 【生活費の目安】

私の家賃は\$120で、月の授業料が1ヶ月に約\$200~\$250、そのほか交通費や食費を

合わせて、5万円程度が普通です。ただし、どこかへ遠出したりした月はそれ以上でした。また、留学生生活を始めて5ヶ月後くらいから、大学以外でベトナム語の個人レッスンを受け始めたときは、1クラス\$10で週2日受けていたので、もう少し授業料が増えました。

#### 【健康、病院、旅行傷害保険】

ハノイの留学生の中では、食あたりや排気ガスによって喉を痛める人が多かったです。私は幸い、大きな怪我や病気はありませんが、一度バイクのマフラーで足を火傷したくらいでした。ハノイには、外国人用の病院が3つあって、そのうちの1つは手術もできるような大きな病院です。どの病院もたいていの旅行傷害保険が使えるようでした。あまりにも病気が重症な場合は、タイやシンガポールに輸送されると聞きました。それから、事前にきちんと予防注射を打っていくことも大切だと思います。

#### 【生活上の注意点】

とにかく、道路上では交通量がかなり多いのと交通ルールが全く守られないので、外を出歩く際は十分に気をつけなければならず、またバイクに乗る場合はそれ以上に危険だということです。

ハノイは、それほど治安も悪くないので、危険な区域なども別段なかったように思いますが、人の多いところや市場ではスリに注意することと、夜遅くなった場合はタクシーを使うことくらいだと思います。また、もし何か問題が発生した場合は、外国人が単独で解決しようとしてもなかなかうまく行かないことが多いので、信頼できる大家さんか学校の先生などに相談して助けてもらったほうがいいようです。

それから、夏は相当暑くなりますが、一応冷房設備は整っているところが多いのでそれほど問題ではありませんが、反対に冬は、結構気温が下がる上に、暖房器具は高級ホテル以外ではほとんど見られないので、とても寒いです。湿気が多いので、体感温度はいっそう寒く感じられます。また、1年を通して湿度が90%以上なので、服や食品にカビが生えやすいので、いつも注意しなければなりませんでした。



雨季には洪水になることも

#### 【必要な行政手続き（ビザ、日本大使館への登録など）】

私は、留学前に日本で留学期間中は有効なマルチビザを取得して行ったので、留学中に更新する必要はありませんでした。もし、ビザの延長手続きが必要な場合は、大学が書類を準備してくれます。大使館で滞在者登録をしておけば、定期的に安全情報などがメール

で送られてくるようでした。

#### 【生活上の留意点、苦労したことなど】

始めのうちは、やはり言葉も全く通じませんし、全てにおいて苦労しました。交通においても、何かを購入したい場合も、相手と交渉する場合も全てにおいて労力と時間を日本にいるときよりも何倍も費やさねばならず、また高い気温と湿度という環境も加わり、何をやるにしても大変な疲労を感じていました。それから、何か人に尋ねても、相手によって答えが異なるということもよくあることなので、注意が必要です。

また、常に水分を十分にとり、外出する際は必ず帽子とマスクを忘れないことが大切です。日焼け止めも必需品です。また、少しでも体調が悪く感じたときは、無理せず休んで、早めに病院へ診察に行くようにしていました。

ベトナム語の勉強という面では、とにかく人とよく話すことが大事だと思います。ただ学校に通う、いつも同じ人とばかり話すのではなく、様々な年齢層で、様々な職業の、いろんな地域の人と恥ずかしがらずに話しをすることを厭わないということを心がけていました。日本語でもそうですが、ベトナム語もそれぞれ話す人によって特徴が異なるので、出来るだけ多くの人とのベトナム語に触れることは大切だと感じました。

#### 4. ベトナム留学での成果

語学の上達という面でも成果は確かにあったと思いますが、それ以外に精神的な面でも成長できたのではないかと思います。というのは、たとえ全くバックグラウンドの違う相手で、言葉もスムーズに通じない相手に対しても、自分が伝えたいという気持ちさえあれば相手も真剣に受け止めてくれるということを感じました。そのために、粘り強さや心の余裕を持てるようになったように感じます。また、何事においても全く予想し得ない事態が突然起こるという状況に多々直面するので、そんなときでもあまりうろたえることなく、落ち着いて状況を認識し、なんとか自力で乗り越えられるよう努力するといった習慣もついてきたことも自分の中では大きな成果だったと考えています。